京大URA報告 「京大の10年後の姿をイメージして」

07. 事務組織の壁を越える

May 29, 2017

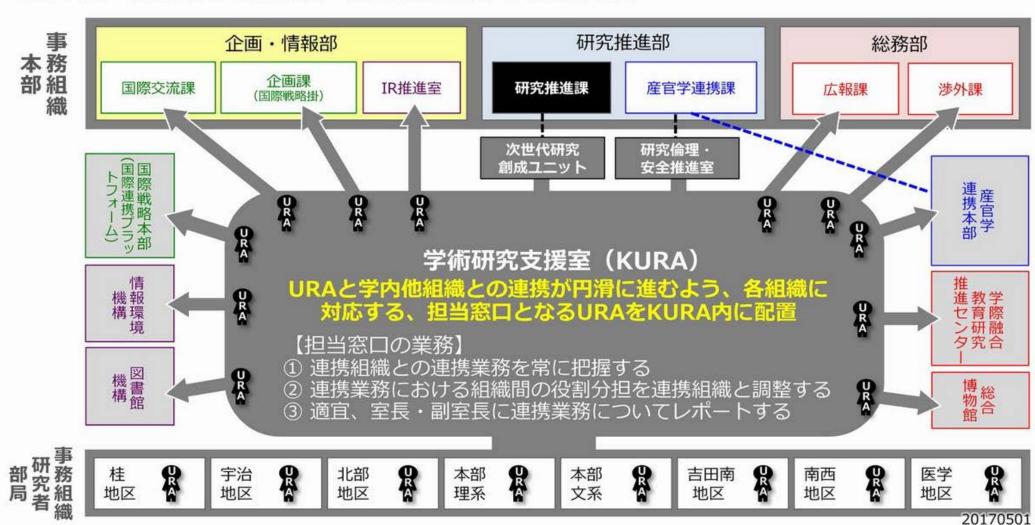
京都大学 研究推進部 產官学連携課

富田 直樹

KURA

学術研究支援室と事務組織の連携

京都大学には従来より多くの研究支援組織がある。しかし、組織間の連携は必ずしも十分でなかった。そこで、**学術研究支援室が全学研究支援組織のハブとしての機能**を果たすことで、より効率的・効果的な研究支援・研究環境整備を可能とした



大学事務組織に対する国での議論

URAの誕生により事務組織の壁は越えられるのか?

大学の事務組織に関する意見(中教審等での議論)

- ▶ 学長,学部長等の行う大学運営業務についての事務組織による 支援体制が十分でない。
- ▶ 大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化する中、(中略)個々の大学職員の質を高める必要性が一層大きくなっている。
- ▶ 教育研究は教員だけがやるものではなく,事務職員も含めた「教職協働」が盛んに言われている一方で,きちんと実行できていない。

既存の事務仕事の範囲を 越える

事務組織間の縦割りを 越える

法人化を経て約15年、大学事務組織はどうあるべきか。

URAと事務組織の連携成果

URAと事務組織の連携で生まれた取組み事例



URAと産官学連携本部との連携強化

URAと産官学連携における協力体制の構築

学術研究支援室 [KURA]

研究プロジェクトの形成

競争的資金等の獲得

研究シーズ情報等の収集・活用

アウトリーチ活動支援

産官学連携本部 [SACI]

国家プロジェクトの獲得・推進

組織対応共同研究の獲得

技術移転・知財・法務マネジメント

ベンチャー育成・支援

KURA × SACI 科学技術・学術 企画連携グループ(仮称)

(KURA-SACI連携のインターフェイス)

企画系業務

政策課題対応型の産官学連携プロジェクト形成・獲得支援

Action Plan 1

産官学連携制度等の企画・ 調査分析支援

Action Plan 2

運営系業務

組織対応型包括連携産学連携 プロジェクトの企画・運営支援

Action Plan 3

産業界へのコーディネート・ 4 橋渡し

Action Plan 4

URAと事務職員の連携のメリット

事務職員とURAの関係

URAと膝を突き合わせた真剣な議論・協働

- 事務職員の研究、政策や国際動向などへの理解が高まり、 スキルアップ・意識改革や積極的な関与につながる。
- 2 これまで事務組織だけでは取り組めなかったチャレンジング で高度な取組みも可能となる。
- 3 大学改革が求められるなか、いわゆるシステム改革といわれる事業への企画・立案・実行機能が強化される。

10年後に向けて目指すべき取組み

京大式「研究力強化」は、

URAと事務組織との<mark>密な連携</mark>が必要

